『光は闇の中に』（ヨハネの福音書 1 章 9-18 節）2021.12.5.

＜はじめに＞ 「クリスマス」の文言は至る所で使われています。しかし、そのすべてがイエス・キリストの誕生を祝っているでしょうか。クリスマスの原風景は聖書にあります。それを取り巻く人々の大半は、イエスの誕生に気付かず、知らされても戸惑い、歓迎していません。なぜなのでしょうか。

Ⅰ　クリスマスの前から(1-8)

①もう一つの描写

マタイの福音書 1-2 章は父ヨセフ、ルカの福音書 1-2 章は母マリアの視点から主イエスの誕生を描きます。もう一つのクリスマスの描写がこのヨハネの福音書の冒頭です。17 節が「イエス・キリスト」の初出です。イエスは誕生後に付けられた名前です。

②初めにことばがあった(1-5)

ヨハネの福音書は、誕生前から先在する「ことば」として描き始めます。「ことば」は神であり、万物の創造以前からおられ、その創造に関わり、いのちの根源です。視線は被造物から人へと絞られて、いのちは人の光として、今も闇の中に輝いています。

③光について証しする人(6-8、15)

神は証人・洗礼者ヨハネを遣わし、やがて現れる光について証しします。旧約聖書のモーセ(17)はじめ預言者たちも同じ役割を与えられ、彼はそのしんがりです。彼の証しによってすべての人が光を信じるためでした。その目的は十分果たされたでしょうか。

Ⅱ　神のご計画(9-13)

①この方と世（10-11）

「この方」は「ことば」「光」なる永遠の神で、世はこの方によって造られ、今に至るまでご自分のものとして治めておられます。世とは人とその世界です。しかし世は自分を造られた方に無知で、理解せず、神からの数々の証人と証拠を示されても受け入れません。

②新しい関係(12-13)

創造者と被造物の立場と関係は破綻していましたが、神は諦めません。神が遣わす者を信じる者には、神の家族・子どもとして迎え入れる(養子縁組)と定めます。民族・宗教的伝統や人間的な能力・意欲・意志によらず、神によって生まれる者に与えられる特権です。

③その時が来ようとしている(9)

この計画実現のために、神は人の光である「ことば」を世に遣わす、と古から約束されています。救い主(メシア=キリスト)です。それはユダヤ人から出ますが、ユダヤ人だけでなくすべての人を照らし、生かすために来られます。それが実現したのがクリスマスです。

Ⅲ　ご計画の実現（14-18）

①ヨハネが描くクリスマス(14)

神なる「ことば」が人となり、肉体を持たれて誕生されたのがクリスマスです。そして私たちと同様に生活される姿がイエスの生涯です。この方は人となられた神であり、御業と行いを通して神の栄光を現し、神が恵みに満ち、真実な御方であることを示されました。

②私たちは見た(15-17)

洗礼者ヨハネは救い主を見た最初の人として証言します。記者ヨハネと読者もこの方を見て信じた者はみな、豊かな恵みと特権を受けました。この方を信じるなら誰でもです。この約束はモーセによって律法に示され、その本質はイエス・キリストによって実現しました。

③神を見た者(18)

「神は見えない」「神はどこにいるのか」は人の現実から出たことばです。だから、神はひとり子の神を人として世に遣わし、イエス・キリストが神を説き明かされました。クリスマスは、このイエス・キリストに世界中の注目が向けられる絶好の機会です。

＜おわりに＞ この方を信じ受け入れ、恵みとまことをまず私は体験しているでしょうか。「この方の栄光を見た」(14)者は叫びます(15)。クリスマスの賛美はこの感動と感謝から生じます。この賛美と叫びがイエス・キリストに気付いていない人たちにも響きますように。（H.M.）